

巻頭言

2018年の鹿児島大会に向けて



東中 竜一郎

(NTTメディアインテリジェンス研究所)

全国大会担当理事の仕事も2年目となり、実行委員長として、次回大会の準備を進めています。前号の会告でご案内しましたとおり、次回大会の開催地は鹿児島（城山観光ホテル）で、日程は2018年6月5日（火）～8日（金）です。

前々回大会（北九州大会）の参加者数は1600名、前回大会（名古屋大会）の参加者数は2500名でした。前回大会の参加者数の予測は2000名だったのですが、AIブームの勢いは私達の予測を大きく超えていました。鹿児島大会はどのくらいの参加者数になるのでしょうか？

このくらい大きなイベントになってくると、大変なのは会場の確保です。大人数を収容できる会場は大都市に多く、どうしても開催地が大都市に偏ってしまいます。しかし、次回大会は鹿児島で実施することにしました。と言いますのも、著者の記憶に強く残っている全国大会は、大都市で開催されたものよりも、地方都市でのものだったからです。良い景色を見て、美味しいものを食べながら、人工知能について楽しく語り合えるようにしたい！ そう考えて開催地を選びました。幸いにも、今回会場となる城山観光ホテルは2000人を超える参加者を十分に収容でき、大きな会場がいくつもあります。会場から見える桜島は雄大で（写真を見てください）、街に下りれば美味しいお店がたくさんあります。必ず満足いただける会場だと確信しています。



図1 会場となる城山観光ホテルから撮影した桜島

次回大会のプログラムについては、主に以下の3点について取り組みます。

- ①オーガナイズドセッション (OS) : 「全国大会といえばOS！」というほど多種多様なOSがあります。前回大会は39件のOSがあり、全セッション数の実に半分がOSを占めていました。しかし、OSが増えていくにつれ、本来の趣旨である「萌芽的な研究テーマや学際的課題など、一般セッションには収まらないテーマについて深い議論を行う」から少し離れたものも見られるようになりました。一般セッションとの違いがよくわからないとの声も聞かれました。そこで、鹿児島大会では、本来の趣旨に立ち戻り、一般セッションに収まらない新しいテーマについてのOSのみを採択する予定です（詳しくは本号の会告をご覧ください）。
- ②チュートリアル：名古屋大会ではチュートリアルを初めて実施しました。「機械学習」と「対話システム」に関するものですが、どちらも立ち見が出るほどの盛況ぶりでした。AIの分野は広く、新しく何かを始めるにしてもどうやってよいかわからないといったことがよくあります。AIに新しく取り組まれる方が多い中、チュートリアルは重要な役割を担っていると考えています。そこで、鹿児島大会では、AIの主要分野におけるチュートリアルを大幅に増やし、10件程度実施する予定です。
- ③企画の充実：鹿児島大会では企画を公募します。「こんな講演会・パネルを実施したい!」、「こんなイベントを行いたい!」といったアイデアをお持ちの方はぜひご応募ください（詳細はWebサイトでお知らせします）。AIに関する面白いアイデアを集め、分野を一層活性化させることを目指しています。また、産業界との連携をさらに充実させるため、前回大会で好評だったインダストリアルセッションの拡充を図るだけでなく、産業界と学術界の橋渡しとなるようなマッチングイベントも企画したいと考えています。

次回大会では、発表申し込みと論文投稿をこれまで別々に行うようになっていたところを、一括で行うようにしました。前回好評だったクレジットカードによる支払いは次回大会でも可能です。クレジットカード払いの場合は、比較的遅くまで事前登録できるようにしました。手続き面でも、可能な限り簡素化したり、利便性を追求したりしていきます。SNS（ツイッターやインスタグラム）なども活用し、鹿児島の様子や、全国大会の準備の様子をタイムリーにお伝えしていくつもりです。早く鹿児島に行きたい！と心待ちにさせていただけるような全国大会にしたいと思っています。鹿児島大会への皆様のご参加を心よりお待ちしております。